

ふるさと紀行

北海道 上川郡 比布町
びっぷぶちよう

「スキーと
いちごのまち」

大雪山連峰を源流とする石狩川流域に位置する、比布町。珍しい名前ですが「びっぷぶちよう」と読みます。アイヌ語のピブ（ピ）がもとになっていて「沼の多いところ」もしくは「石の多いところ」の意味だといわれています。寒暖の差が大きい土地で、夏は30度を超えますし、冬はマイナス20度以下になることもあります。わたしが子ども

族総出で1日何度も作業するのですが、翌朝にはまた何10時間も積もっていることもよくありました。

比布町は「スキーといちごのまち」です。

夏には、特産のイチゴ狩りを楽しみに多くの人々が町を訪れます。イチゴを使った製品もいろいろ作られており、わたしは特にイチゴジャムがお気に入り。実家から送ってもらうこともあるんですよ。冬はやっぱりスキーですね。パウダースノーのびっぷスキー場で、毎日のように滑っていたことを思い出します。

少し古い話ですが「びっぷ」の名が縁で、磁気治療器のテレビコマーシャルの撮影が比布町で行われたこともあります。比布町の名が一躍全国的に有名になった、楽しい思い出です。



イチゴ農園は、毎年6月下旬～7月中旬ころ開放され、多くの人でにぎわいます



データ (平成21年12月31日現在)
比布町
人口 ●4,228人
世帯数 ●1,841世帯
面積 ●87.29平方キロ



中根 慶泉さん
(栃立町)

はっぴー Happy Baby ベビー



まお 1歳6か月
小林 真緒ちゃん 東梅坪町

パパ&ママから

我が家に生まれてきてくれてありがとう！これからも元気に楽しく過ごしていこうね！



ほのか 6か月
梶 帆乃佳ちゃん 四郷町

パパ&ママから

素直な優しい子に育ってね♡



しょうご 7か月
荒木 涉吾くん 市木町

パパ&ママから

いつもかわいい笑顔をありがとう。すてきに育ってね。



ちはる 8か月
田崎 千晴ちゃん 前田町

パパ&ママから

いつも笑顔いっぱいの子の千晴。生まれてきてくれてありがとう。



タイピングならお任せ。 パソコンの達人

「やるじゃん!」コーナー担当者の悩みごと。原稿仕上げが遅いことと、その原稿をパソコンに入力するのもまた遅いこと。目にも止まらぬ速さでタイピングをする速記者の姿をテレビで見つらやむ毎日ですが、今回、パソコン入力で全国1位に輝いた小学生を取材しました。

1月23日、24日の両日、東京で開催された「第10回全国中学生創造ものづくり教育フェア」。川畑拓也さんは、パソコン入力コンクールの「和文A小学生高学年の部」でみごと1位となり、全日本中学校技術・家庭科研究会長賞に輝きました。

競技は、与えられた課題を5分間で何文字入力できるかで競います。課題の内容は、ことわざ。例えば「論語読みの論語知らず／書物を読んで知識はあるが・・・」と延々と書かれているテキストを見て、ひたすらパソコンに入力します。今回の川畑さんの記録は千222文字。2位の千14文字、3位の971文字と比べると、図抜けた成績。しかも、これだけの文字数を入力する中で、ミスはわずか1文字といえますから驚きです。速さだけでなく、正確性も求められる競技なのです。

「競技の前はとても緊張したけど、いい結果を出せてホッとしました」と話す川畑さんがパソコンに初めて触れたのは、4〜5歳のころ。「姉がパソコンで調べものをしているのを見て、



川畑 拓也さん(広川町、12歳)

興味を持ったんだと思います」。小学2年生のころから通うアビバキッズ梅坪教室の指導者・加藤ひろみさんは「タッチタイピングスキーボードを見ずにキー入力する技術」の習得も早く、継続して学ぶ姿勢や、大会で実力を発揮できる点もすばらしい」と話します。これまで多くの大会に出場し、受賞歴は豊田市教育委員会表彰(2007年)、文部科学大臣賞・愛知県知事賞(いずれも2008・2009年)など、数え切れないほどです。

努力していることは、たとえ5分間でも、必ず毎日パソコンで練習すること。課題にあわせて、ことわざ辞典を座右に勉強も欠かしません。ことわざの知識が多いほど、その分タイピングのスピードも増します。「身につけたパソコンの技術を、学校の学習に生かせるのがうれしい」と話す川畑さんは新年度からは中学生の部に上がります。「2年生、3年生にも負けないようにがんばります」と語る川畑さんの夢は、裁判所の書記官になること。特技を生かして、頑張ってほしいですね。

ぶらり 市民レポーター
タウンレポート

消費生活センター

第20回

消費トラブルで困ったら 一人で悩まず、相談を。



「お母さん、わたし。事故しちゃって...」「いつ?どこで?はつきり話さない!」振り込め詐欺ブームに乗り、かかってきた電話に「喝。我が家の場合、母のき然とした態度で被害を免れることができましたが、実際に被害に遭ったという人もいます。こういう場合、どうすればいいのでしょうか。」

A館T-FACE7階にある消費生活センター。こちらでは消費生活アドバイザーなどの資格を持つ専門の相談員が、消費トラブルへの助言・指導などを行っています。うれしいことに相談日は毎日午前10時～午後6時(5月3日～5日および前後に連続する土・日曜日、祝日、12月29日～1月3日を除く)。土・日曜日、祝日も開いているため、自分の生活パターンに合わせて利用することができま



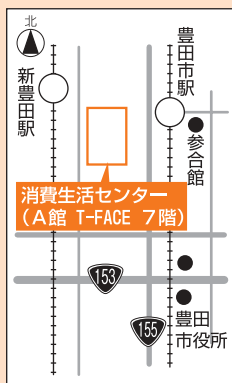
今月の市民レポーター
原田まどかさん(梅坪町)

相談処理件数のピークは平成16年度で6千128件、以後減少傾向にありますが、実際の被害はそれ以上ではないでしょうか。相談内容にも流行があり、平成16年度ころは振り込め詐欺関連が多かったのが最近ではインターネットなど通信系によるトラブルの相談が増えているそうです。また、訪問販売による高額品の押し売りに関する相談も後を絶ちません。

相談業務のほか企業・自治区に講師を派遣する移動消費生活講座やくらしに役立つ情報を提供する消費生活専門講座など、消費者への啓発活動にも力を入れています。今後も各地域・団体や専門家などとの連携を強化し、被害者を増やさないよう積極的に活動していきたいとのこと。

「特に高額品を購入する際は即決せず、家族と相談し、何社か見

積もりを取る。良い面だけでなく、デメリットも考慮し、契約内容はよく確認すること。不明な点は直接メーカーに聞くか、こちらにご相談ください」と吉田所長。しかし、消費生活センターが何でも解決できるわけではないことを念頭に置かなければなりません。「知らなかった」では済まされないこのご時世。一人ひとりが正しい知識を持ち、未然に被害を回避することが大切です。センターをうまく活用し、賢い消費者になりたいものです。



33 ● 問合せ 消費生活センター (☎ 0669)